

堺 アルフォンス・ミュシャ館 特別展「ミュシャ 謎の絵画」を開催します

堺 アルフォンス・ミュシャ館では、特別展「ミュシャ 謎の絵画」を以下のとおり開催します。

チェコを代表する芸術家アルフォンス・ミュシャのパリ時代のフィナーレを飾る油彩画《クオ・ヴァディス》。縦横 2 メートルを超える大画面には、古代ローマの邸宅で少女が大理石像に口づける小説のワンシーンが描かれています。背後から覗き見る人物は、原作小説には登場せず、その正体や、このシーンが選ばれた理由など、本作にまつわる多くのことは、謎に包まれてきました。

本展では、1979年に発見されるまで長らく行方不明だった《クオ・ヴァディス》の全貌を解き明かします。さらに、堺市に伝わる絨毯の手織り技術「堺緞通」で織られた、ほぼ原寸大のタペストリーを初公開します。

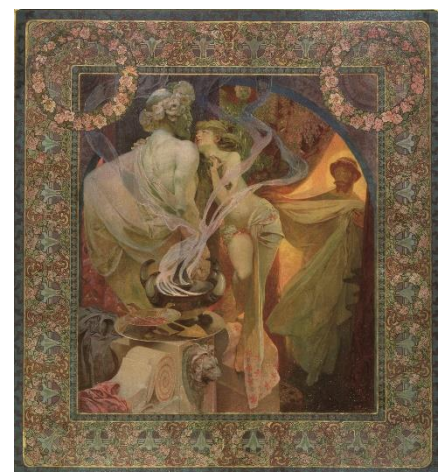
1 特別展概要

展覧会名	特別展「ミュシャ 謎の絵画」
日時	令和 7 年 4 月 20 日（日）～令和 7 年 8 月 17 日（日） 開館：午前 9 時 30 分～午後 5 時 15 分（入館は午後 4 時 30 分まで）
休館日	月曜日、休日の翌平日 ※詳細な日程は、別紙をご覧ください。
場所	堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） （堺市堺区田出井町 1-2-200 ベルマージュ堺式番館）最寄駅：JR 阪和線「堺市」駅
観覧料	一般 900 円（720 円）、高校・大学生 550 円（440 円）、小・中学生 150 円（120 円） ＊（ ）は 20 人以上 100 人未満の団体料金 ＊特別展のため、従来の観覧料の金額と異なります。

※見どころや展示構成、関連イベントなどの詳細は、別紙をご覧ください。

2 アルフォンス・ミュシャ

- ・19 世紀末のパリで一躍人気のポスター作家として才能を開花させたアルフォンス・ミュシャ（1860-1939）は、芸術様式アール・ヌーヴォーを代表する画家として広く知られています。
- ・ミュシャのポスター作家としての成功は、稀代の女優サラ・ベルナール（1844-1923）との出会いにより、彼の名がパリ中に広まったことがきっかけです。
- ・1900 年のパリ万国博覧会への出展を経て、後年には祖国チェコへの芸術的貢献を願い、大連作《スラヴ叙事詩》をはじめ、チェコの独立と平和を願った油彩画などを制作しました。

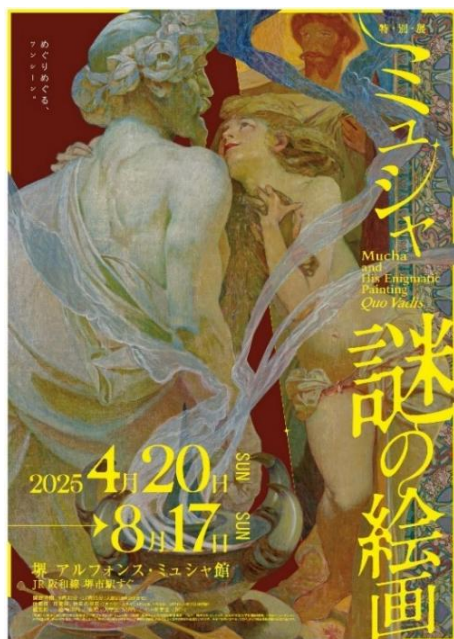


アルフォンス・ミュシャ《クオ・ヴァディス》
1903-04 年（1920 年加筆） 油彩、カンヴァス
堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市）蔵

3 堺市とミュシャの関係

- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館が所蔵するミュシャとその関連作家の作品約 520 点は株式会社ドイの創業者、土居君雄氏（1926-1990）の収集を基にしたものです。土居氏の没後に遺族によって堺市に寄贈されました。
- ・コレクションは、ミュシャのポスターや油彩画、素描や宝飾品など、世界有数を誇る体系的な作品で構成されています。
- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館では、ミュシャの初期から晩年期にまでわたる作品を展示し、様々なテーマでその創作活動を紹介しています。
- ・また、堺で生まれ育った情熱の歌人・与謝野晶子は、明治浪漫主義の文芸誌『明星』で活躍しました。『明星』の誌面では、ミュシャは「ムッカ氏」という名前で紹介されており、ミュシャの作品を思わせる挿絵が日本人画家によって描かれています。ミュシャは堺市にとって大変縁のある画家と言えます。

問 い 合 わ せ 先	（企画展に関すること） 担 当：公益財団法人堺市文化振興財団 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 電 話：072-222-7227 ファックス：072-222-6116
	（本市の文化振興に関すること） 担 当 課：文化観光局 文化国際部 文化課 電 話：072-228-7143 ファックス：072-228-8174



特
別
展

ミュシャ 謎の絵画

Mucha
and
His Enigmatic
Painting
Quo Vadis

2025年4月20日（日）－ 8月17日（日）

めぐりめぐる、ワンシーン。

（みどころ）

- ①ミュシャの絵画を堺市の伝統技術「堺緞通」で織り上げた新作タペストリーを初公開！
絵画の歴史に新たな1ページを刻みます。
- ②世界有数のミュシャコレクションとともに、謎の絵画《クオ・ヴァディス》の全貌を
解き明かします。
- ③パビリオンに見立てた5つの部屋を自由にめぐる構成。
125年前の壮麗な万博「1900年パリ万国博覧会」の関連作品も大集合！

展覧会名 特別展「ミュシャ 謎の絵画」

2025年4月20日（日）から8月17日（日）まで

会期 <内覧会のお知らせ>
日時：4月18日（金）10：00-17：15 / 19日（土）9：30-17：15
※18日（金）10：00-12：00は、プレス関係限定の時間帯となります。
※事前申込は不要です。当日、受付にて必要事項をご記入いただきます。
※当日、学芸員への取材をご希望の方は、あらかじめお問い合わせください。

会場 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）

開館時間 午前9時30分から午後5時15分（入館は午後4時30分まで）

休館日 月曜日、休日の翌日（7月22日）
*ただし、4月28日・4月29日・4月30日・5月5日・5月6日・5月7日・7月21日・8月11日・8月12日は開館

観覧料 一般900円(720円)、高校・大学生550円(440円)、小・中学生150円(120円)
*()は20人以上100人未満の団体料金

主催 公益財団法人堺市文化振興財団、堺 アルフォンス・ミュシャ館

後援 在堺チェコ共和国名誉領事館、堺式手織緞通技術保存協会

協力 株式会社インテック、富山県美術館、東京外国語大学附属図書館、OGATAコレクション、フェニーチェ堺

制作協力 大阪刑務所

お問合せ 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 担当：川口、藤本
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
TEL) 072-222-7227 FAX) 072-222-6116
E-mail) mucha@sakai-bunshin.com <https://mucha.sakai-bunshin.com> HP▶



概要

チェコを代表する芸術家アルフォンス・ミュシャ（1860-1939）のパリ時代のフィナーレを飾る油彩画《クオ・ヴァディス》（1903-04年、1920年加筆）。縦横2メートルを超える大画面には、古代ローマの邸宅で少女が大理石像に口づける小説のワンシーンが描かれています。背後から覗き見る人物は、原作小説には登場しません。その正体や、このシーンが選ばれた理由など、本作にまつわる多くのことは、謎に包まれてきました。本展では、1979年に発見されるまで長らく行方不明だった《クオ・ヴァディス》の全貌を解き明かします。また、この絵画にいたるまでのミュシャの創作の軌跡を、代表的な版画作品をはじめ、挿絵、素描、油彩、ジュエリーによってたどり、当館が誇る世界有数のミュシャコレクションの魅力を余すことなく紹介します。さらに、堺市に伝わる絨毯の手織り技術「堺緞通」で織られた、ほぼ実寸大のタペストリーを初公開。1910年のアメリカで絨毯の原画となるはずだった絵画の歴史に、新たな1ページを刻みます。

展示構成

Pavilion I シーンとエピソード

初期の挿絵からサラ・ベルナル主演の演劇ポスターまで、「物語」を描いたミュシャ作品の数々が並びます。

Pavilion II 1900年パリ万国博覧会

「アール・ヌーヴォーの勝利」と称された、125年前の壮麗な万博。オーストリア館のためのポスターや彫刻、ボスニア・ヘルツェゴビナ館のための壁画の下絵などを通して、ミュシャの当時の活躍を振り返ります。

Pavilion III 絵画の注文

ミュシャへの注文の多くは、空間を彩るための絵画でした。パリ時代の装飾パネルをはじめ、アメリカに拠点を移した後に受注制作した油彩画を紹介します。

Pavilion IV クオ・ヴァディス——絵画と絨毯

ミュシャの絵画《クオ・ヴァディス》を「織る」——1910年の幻の計画が、堺市の伝統技術「堺緞通」によって実現。115年の時を経て叶った夢。ふたつの傑作が並ぶ歴史的機会をお見逃しなく。

Pavilion V ワンシーンの起源

「謎の絵画」の鍵を握るのは、1901年パリで巻き起こった『クオ・ヴァディス』ブーム。原作小説やその挿絵、演劇の記録、そしてある夜のイベントなどを手がかりに、当時の流行の実態に迫ります。

ミュシャ
×
堺緞通**プロジェクト「ミュシャ×堺緞通」とは？**

115年前のアメリカで、《クオ・ヴァディス》を原画とする絨毯制作の構想がありました。ミュシャのもとで果たされなかったその夢を、現在この絵画を所蔵する堺市の伝統技術「堺緞通」とのコラボレーションで実現をめざすプロジェクトです。資金は2021年にクラウドファンディングで募り、392名の方々から522万1,000円のご支援をいただきました。製織を担うのは、技術を受け継ぐ大阪刑務所。約2年10か月の時を経て、2024年10月についに完成を迎えました。堺緞通史上、至高のタペストリーを、いよいよ本展で初公開いたします。



お問合せ

堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 担当：川口、藤本
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
TEL) 072-222-7227 FAX) 072-222-6116
E-mail) mucha@sakai-bunshin.com <https://mucha.sakai-bunshin.com> HP▶



体験

フォトスポット “絵画になりきる”再現部屋

絵画を再現したりリアルな体感型フォトスポット。
絵画の人物になりきることで、19世紀末の余興「活人画」を追体験できます。

関連
イベント

【1】講演会「絵画《クオ・ヴァディス》の魅力」

本展ならびにプロジェクト「ミュシャ×堺緞通」の企画担当学芸員が、
《クオ・ヴァディス》に関する最新の調査内容や、展覧会のみどころを語ります。

講 師：高原茉莉奈（企画担当学芸員）

日 時：2025年5月18日（日）14：00～15：30（開場13：30）

定 員：60名（申込不要・当日先着順）

対 象：どなたでも

参加費：無料 *イベントの参加には、本展会期中の観覧券（半券可）の提示が必要です。



【2】講演会「堺緞通の歴史とミュシャの新作緞通」

堺で江戸時代に始められた手織の絨毯、堺緞通。
その歴史と現状を紹介し、ミュシャの新作緞通の意義をお話します。

講 師：堀川亜由美（堺市博物館学芸員）

日 時：2025年8月3日（日）14：00～15：30（開場13：30）

定 員：60名（申込不要・当日先着順）

対 象：どなたでも

参加費：無料 *イベントの参加には、本展会期中の観覧券（半券可）の提示が必要です。



【3】ワークショップ「ミニ緞通を織ってみよう」

《クオ・ヴァディス》色に染められた残糸をつかって、
簡易器具を使用したミニ緞通の手織りに挑戦します。

講 師：堺式手織緞通技術保存協会、堺市博物館スタッフ

日 時：①4月27日（日）②6月15日（日）各日13：30～（2.5時間程度）

定 員：12名（申込先着順）

対 象：小学生以上（小学生は要保護者同伴）

参加費：無料 *イベントの参加には、本展会期中の観覧券（半券可）の提示が必要です。



※画像はイメージです。

スペシャル

【1】謎解きクロスワードパズル

本展期間中、オリジナルのクロスワードパズル用紙を希望者に配布します。
展示室内の解説パネルからキーワードを探し、謎解き体験をお楽しみください。

*正解者の中から抽選で本展オリジナルスカーフ(非売品)をプレゼント！

*配布数限定、なくなり次第終了

日 程：2025年4月20日（日）～2025年8月17日（日）

対 象：どなたでも

参加費：無料 *参加当日の観覧券が必要です。



※画像はイメージです。

【2】ミュシャ重ねおしスタンプラリー

ミュシャの誕生日と命日の2つのアニバーサリーを記念し、スタンプラリーを実施
します。館内をめぐって7つの色のスタンプを重ねておすと、1枚の絵が完成します。

*配布数量限定、なくなり次第終了

日 時：2025年7月12日（土）～8月17日（日）

対 象：どなたでも

参加費：中学生以下無料、高校生以上有料（1枚 100円）

*参加当日の観覧券が必要です。



※画像はイメージです。

※その他追加イベントについては当館HPをご確認ください。

※イベント申込方法など、詳細については当館HPをご確認ください。

※ホームページは随時更新します。

お問合せ

堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 担当：川口、藤本
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
TEL) 072-222-7227 FAX) 072-222-6116

E-mail) mucha@sakai-bunshin.com https://mucha.sakai-bunshin.com HP▶

